

聞いて！見て！触って！ 看取りのシミュレーションと身近な医療機器

10月26日(木)・27日(金)、姫路メディカルシミュレーションセンターひめマリアにて上記研修会を開催しました。看取りについての講演後、シミュレーション人形や医療機器を実際に“聞いて見て触って”体験をしていただきました。2日間で計42名の医療・介護職の方々にご参加いただきました。

姫路市医師会 訪問看護ステーション 管理者

吉原 弘美 氏に、事例や実際のご経験も取り入れながら、看取りの支援について分かりやすくご講演いただきました。

- * 看取り期の一般的な身体的変化や兆候を理解し、支援しましょう
- * 不安を抱えるご本人・ご家族に、声かけやスキンシップも大切です
- * 多職種間で気づきや考え等を伝え合い、一緒に検討できる関係性をつくりましょう



看取りのシミュレーションの人形や医療機器を、五感を使って体験をしていただきました。各ブースでは質疑応答が活発に行われていました！



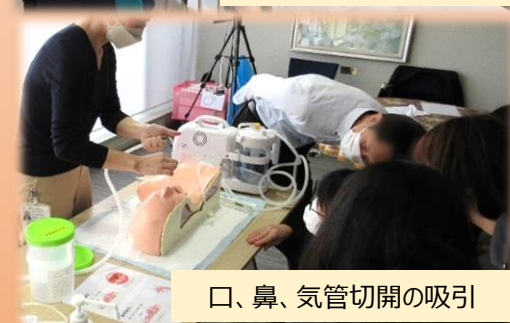
看取りのシミュレーション



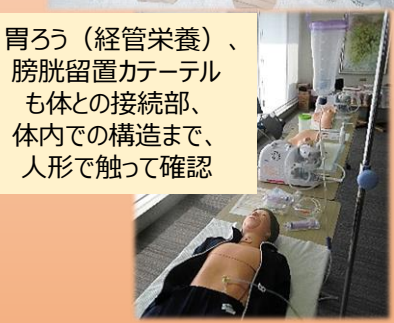
ストマ関連物品も実際に触って確認



人工肛門(ストマ装具)



口、鼻、気管切開の吸引



胃ろう(経管栄養)、膀胱留置カテーテルも体との接続部、体内での構造まで、人形で触って確認



在宅酸素

【参加者アンケート回答より(一部抜粋)】

- ・(看取りの)経過を具体的に教えてもらえてよかった。実際に(各ブースでの)体験ができてよかった。
- ・いつも「これで良かったのかな」と不安でしたが自信を持つことができました。人形を使ったシミュレーションも、リアルで分かりやすかったです。
- ・看取りの利用者様の身体の変化、家族様の心情を少しの変化で気づけるよう観察していきたいと思った。
- ・看取りに携わる人間の心構えや考え方、多職種連携と判断力や行動力等が必要であること、最期に寄り添うために必要な知識や情報をしっかり把握しておくことが、大切であることを理解できました。